



上/《予定調和》  
油彩 鉛筆 パネル キャンバス  
162.0 x 112.0 cm  
2016年

下/《フラッシュバック》  
油彩 パネル キャンバス  
100.0 x 65.2 cm  
2013年

山 本大也は、私たちが生活をしていく中で、良く目にする日常的なものを描く画家である。驚くほど緻密で写実的に表現されたモチーフは、タンスの引き出し、コンセント、スイッチ、花、パンなど。突然だが、左に掲出したような山本作品が壁に展示されているところを想像してみしてほしい。絵画

として認識するのではなく、実際にその壁に掛けられているという錯覚に陥るはずだ。山本は、トロンプ・ルイユという手法を用いて制作をおこなう。これは「目を騙す」というフランス語から由来し、写実的な表現で壁に奥行きを感じさせたり、存在しない物がそこに実在しているかのように思わせたりする技法

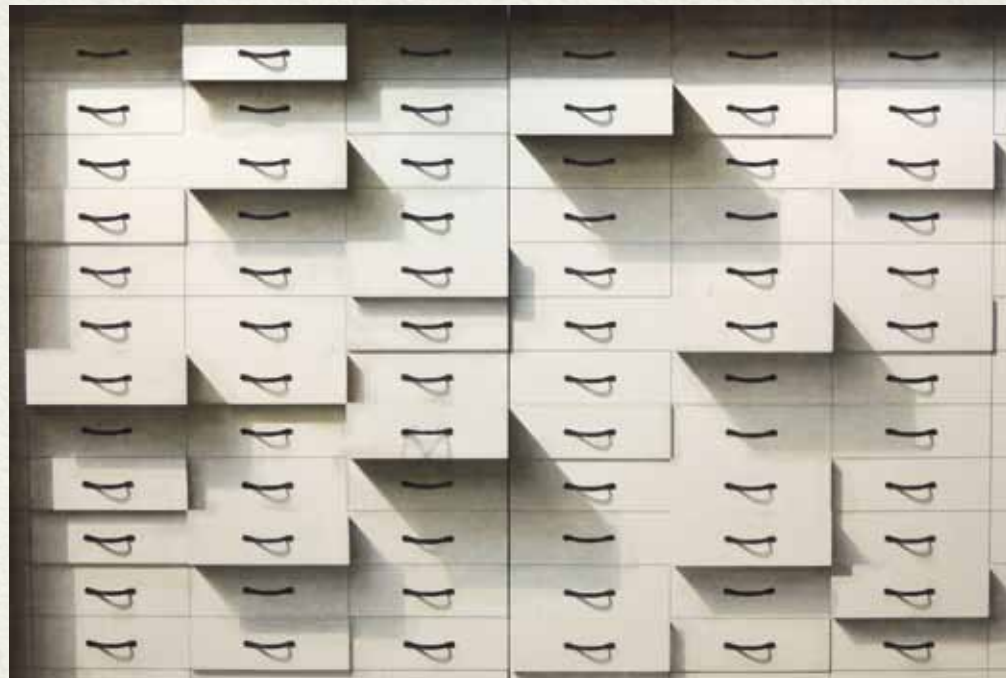
だ。今日ではトリックアートや騙し絵などとも呼ばれている。山本は大学生の頃、研修のために訪れたヨーロッパの古い建物の壁の多くにこの技法が施されているのを観た。壁画が建物と調和し、現実(社会)に溶け込んでいるように感じたという。それから彼はトロンプ・ルイユを研究し、制作するようになった。



隔てられた絵画と現実の空間を埋めるような作品を描き出す

# 山本大也

DAIYA YAMAMOTO



《収納媒体は壁の中》 アクリル 鉛筆 金具 パネル キャンバス / 180.0 x 268.0 cm / 2012年 / 協賛:パニーコル・アート